

―連携取組で育てたい人材像とは。

この取組で目指すのは、医療分野、福祉分野、工学・技術分野という専門性と特色を活かしつつ、学習内容を相互補完・拡充し、地域のニーズに応じた学際的な視野を持った人材の育成です。

―そのような人材を必要とする背景には、どのような課題があるのでしょうか。

「ものづくりのまち」北九州地域では、生産年齢人口の減少をはじめ、多様な要因で技術・技能の継承が困難となっています。このため、高齢者の健康増進の視点を立って、就業高齢者を支援することは、福岡県において緊急に取り組むべき重要なテーマです。

―なぜこの4大学で連携することになったのですか。

北九州地域における医歯工連携の活動が基礎となつていきます。この活動を発展させて、4大学でタッグを組むことにしました。医療分野に強みを持つ九州歯科大学及び産業医科大学、工学・技術系及び生命工学系に強みを持つ九州工業大学、福祉系及び生命工学系に強みを持つ北九州市立大学による、学際的職業人育成力を結集します。

―取組は5年間実施します。どのような計画を立てていますか。

平成24年度は「北九州地区大学連携教育研究センター」を設置し、本取組の実施基盤を確立します。平成25年度から「職業倫理学特論」を始めとする連携教育科目による職業人育成を開始します。その後、本格的な実施期間を経て、福岡県における健康増進の視点を立った就業高齢者支援の拠点化を目指します。取組の期間終了後も、地域医療機関との連携の拡充などという形で、発展的に取組を継続したいと考えています。

―この事業に採択されたことで、新たにどのようなことができるようになりますか。

講義だけでなく、新たに各領域の実習やエラーニングなどにより学際的な職業人育成を行います。これにより、福祉分野と工学・技術分野に造詣の深い医療職、医療分野と福祉分野に造詣の深い工学・技術者、医療分野と工学・技術分野に造詣の深い福祉職を、年間20名程度「ものづくりのまち」北九州地域に輩出できるようになります。

―取組の中には、各大学等でこれまで行っていた活動のレベルアップを図るものもあると思いますか、それはどのようなものですか。

これまで4大学間で個別に行ってきた大学院交流の連携実績を踏まえ、より多角的、総合的見地から学際的な単位互換制度を構築し、4大学間連携による大学院教育を充実させていきます。将来的には、学部教育への拡充を図ることも視野に入れ、対象学生のすそ野の拡大も目指します。

―連携の成果はどのような形で社会に示すことができるのでしょうか。具体的な成果指標のイメージはありますか。

学生はプログラムを受講すると多角的で学際的な視野を獲得することで、実践的な問題解決能力を身につけることができます。能力の向上は、平均GPAの経年的向上によって確認します。その間、ステークホルダーと連携し、学生が自治体や企業をはじめとして、健康増進の視点で高齢就業者を支援するフィールドで広く活躍するよう全力で取組を進めてまいります。

ステークホルダーからのメッセージ

福岡県知事

小川 洋

福岡県には高度なもののづくりの技術力が蓄積されています。しかし、団塊世代の退職や少子化の進行による生産年齢人口の減少等により、その継承が課題になっています。一方で、多くの高齢者は退職後も元気に働きたいという意欲に溢れています。高齢者は就業にあたって健康面の関心が高く、4大学の力を結集し、健康増進の視点から高齢者を支援できる人材を育成する本事業は重要であると考えています。本県は高齢者が健康でいきいきと働き活躍できる社会づくりの実現に取り組んでおり、4大学と協働してまいります。

